

＜晩秋＞この十日ほどは二十四節気の”立冬”から”小雪”にあたり、ちょうど秋から冬に移り変わる時期です。富士は麓まで雪化粧した冬の姿そして手前の雑木林は黄、赤、緑の秋の色です。ビオトープの木々もすっかり色づいていますが冬枯れ前でまだ葉の密度も濃い姿です。



＜神の実＞雑木林の所どころに生えているガマズミが赤い果実を付けています。大きさ 5-6mm ほどの小さな実ですが果汁が多く甘酸っぱい味がします。冬の山に入って食料に窮した時にマタギはガマズミで飢えを凌いだ”神ツ実”だそうです。また枝とか樹皮も荷物を運ぶ縄として役立ったようです。



＜ビオトープの雑木林の紅葉＞

(マタギ) 東北から北海道で熊や鹿の狩猟を生業とする人たちで”神ツ実”をガマズミの語源とする説があります。

＜鳥の眼＞ガマズミ、シロダモ、ノバラの実は赤、ノブドウ、タラノキ、タブノキ、イボタノキ、ネズミモチなどの実は黒から黒紫です。前号でも触れたように小鳥にはこんな果実が目立つのでしょうか。ただ鳥たちにとって私たちの言う赤とか黒がそう見えているかどうか。鳥たちは赤、緑、青そして紫外光を視る 4 色型色覚を持っていて視力もヒトの数倍はあるとのこと。赤はともかく果実の黒はどのように視えているのでしょうか。



＜ガマズミの果実＞

＜小春日和＞快晴で風もなく暖かい日がありました。そんな昼下がり草むらにナナホシテントウを見つけました。倒木や家屋の隅で何十匹と集まってそろそろ冬越しをする時期なのですが。久しぶりの暖かさ



＜ノブドウ＞

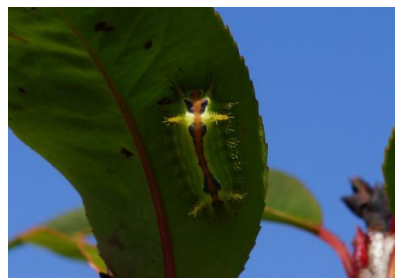


＜タラノキの果実＞

さにかかれ出たのでしょうか、小春日和にふさわしく歩いている姿にほっとします。もう一つ、アカメモチの葉裏に赤、青、黄、緑の色模様だけでなく角も脚も派手な造りの芋虫を見つけました。少し時期外れのようにですがクロシタアオイラガの幼虫です。



＜ナナホシテントウ＞



＜クロシタアオイラガの幼虫＞

(文と写真：松本正勝)